



2012年1月18日放送

## 印象に残る症例②

金沢大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

特任准教授 小川 恵子

漢方治療を専門にしている、長期間悩んでいた症状が改善するのは患者さんにとっても治療者にとってもたいへんうれしいものです。そのような印象に残った症例を1つお話ししたいと思います。

症例は80歳の女性です。主訴は口内炎と舌の痛みです。

既往歴は、X-2年6月 右頬部の中分化扁平上皮がんにて、右頬粘膜癌切除術を施行されています。また、X-1年1月と4月 両側変形性膝関節症に対し、人工関節置換術を施行されています。その他、高血圧、胃潰瘍、憩室出血の既往があります。

現病歴です。先ほど既往歴で申し上げましたように、X-2年から右頬粘膜癌と人工関節置換術で、入院・手術を繰り返していたため、不眠、抑うつ状態となり、精神科にて薬物治療中でした。X-1年10月より口内炎が出現、舌にもアフタ状潰瘍が出現しました。細胞診では癌は否定的であったので、ステロイド軟膏による治療や、内服薬変更を行ったが全く改善しませんでした。

X年1月、漢方治療を希望されて当科受診となりました。

自覚症状としては、口内炎がいたい、舌の周りがびりびりするという症状の他に、口渇あり、寝つきが悪く、小便が頻回で、夜間尿も、6回程度ありました。また、口内炎ができやすいため、食事をとると痛みが増すため食欲がなく、ご家族のお話では、1日中寝ている

か、座ってテレビを見てぼーっとしているか、というような生活になってしまっているとのことでした。ご本人とお話しても、話すのもおっくうな感じでした。

所見は、身長 139 cm、体重 46.4 kg、心音異常なし、呼吸音清でした。和漢診療学的所見では、脈候：やや小、弦、やや洪、舌候：色調はやや暗赤、腫大・亀裂・舌尖紅あり、やや乾燥した微白苔を被っていました。腹候：緊張中等度で、腹直筋緊張あり、臍傍圧痛あり、小腹不仁を認めました。

以上の所見から、上盛下虚として、清心蓮子飲エキスを処方しました。

3週間後、口内炎は非常に縮小し、活気が出てきました。ご家族のお話では、テレビを見て笑うようになり、食欲も少し出てきたそうです。また、精神科処方の抗うつ薬を服用しなくても眠れるようになってきたため、薬を漸減し始めました。

6週間後、口内炎はより縮小、舌痛半減し、口乾、夜間尿も消失、不眠も改善した。舌の dyskinesia もほぼ消失しました。

3ヵ月後、口内炎は全くできず、食欲も増し、笑顔も見られるようになり、不眠、抑うつも改善したため、X+1年11月に精神科受診は終了となりました。現在は、清心蓮子飲エキスを継続服用し、経過は良好です。

清心蓮子飲は、和剤局方を原典とする処方です。原典には、「心中蓄積、時に常に煩躁、因りて思慮労力憂愁抑鬱」「上盛下虚し、心下炎上、肺金剋を受け、口舌乾燥、漸く消渴を成し、睡臥安からず、四肢倦怠」とあります。蓮子すなわち蓮肉には養心安神、強壯・鎮静作用があり、心火を清熱する、つまり清心作用があることから名づけられています。黄芩は中焦の実火をしゃし、麦門冬は心肺をうるおして熱を冷まし、茯苓にも安神作用があるとともに、利水作用があります。また、構成生薬に黄耆と人參があることから、気を補う作用にも優れていることがわかります。

本症例は、がんのサバイバーであり、再発への不安などが「心中蓄積し煩躁」し、さらに続いた手術で気を消耗し、うつうつとして「思慮労力憂愁抑鬱」となったと考えられました。また、頻尿や夜間尿が認められたことから腎も虚しており、心火は上炎しているのに、下焦は虚している、上盛下虚の状態と考えられました。ご高齢と言うことで、黄芩を含むこの処方には不安もありましたので、胸部の聴診と、血液検査での肝機能障害と間質性肺炎のチェックは定期的に行いました。

キーワードは上盛下虚です。下虚によって現れる症状が頻尿や排尿困難だとしますと、上勢で現れる症状が口内炎や舌痛と考えるとよいかもしれません。気淋、すなわち排尿障害によく使われますが、山本先生は東医雑録の中で、本方は主に筋肉の弛緩、無力による気淋のみ有効であるといっています。また、心熱が比較的軽く、その上に気虚を兼ねているとしています。脾腎を補い、陰虚陽亢を治する働きがあることがわかります。特に、安神作用を有する生薬が多く含まれており、原典に書かれているとおり、様々な症状に有効であるのではないかと推察されます。

本症例も、口内炎、舌痛症が改善したばかりでなく、抑鬱症状が改善することによって、精神科の薬剤が減薬でき、生きる意欲が増しました。清心蓮子飲は、補剤という側面も持っており、特に加齢の中で衰えやすい脾腎を補うと考えると使用範囲も広がりそうです。